

# 熊本のい業

## 第 12 号

### 目 次

いぐさ栽培優良事例調査から

県経営普及課専門技術員 養田 繁 則…………… 1

県八代農業改良普及所

いぐさ——大豆の栽培法について

県農業試験場八代支場 佐藤 巖…………… 10

宇城地方のい草、い製品の生産状況について

県宇城農業改良普及所 岩崎 嵩…………… 19

土づくりと耕種基準の遵守による畳表の品質向上

県八代農業改良普及所…………… 24

球磨地方いぐさのあゆみ

岡原農協 立山 信 幸…………… 26

いぐさ、い製品品質向上コスト低下運動について

県農産課…………… 28

昭和57年度くまもと表求評会について

県農産課…………… 39

いぐさ新製品開発事業について

県農産課…………… 42

《技連だより》

省エネルギー技術実用化促進事業について

県農業試験場八代支場

# 球磨いぐさのあゆみ

岡原村農協参事 立山 信幸

## 1. いぐさ導入の背景

従来、球磨地方の農業は主として米＋畜産、米＋たばこ、米＋養蚕等々、米を主軸とした複合経営が行われてきた。昭和40年～42年頃は、米づくり運動の盛期であったが、運動の骨子は、うまい米、うれる米作りである。その当時から米は過剰基調にあり、その中での運動であった稲作主体の経営を展望するとき、どうも怪しい雲行きしかうかばない、とき恰も昭和41年頃より県営ほ場整備事業が球磨全土に導入され、事業実施に伴ない、裏作が作付不能となる。中でも裏作補償問題等が起り、農業所得の収入減を如何にして補充すべきかと連日連夜、夜を徹しての検討がなされた。協議の末、球磨地方に於いては夢想だにしなかった、い草に着目し、当時の岡原農協組合長、井本初雄氏を中心とし命運をかけた新たな作目導入の選定であった。営農指導陣を叱咤激励、組合長自から先頭に立ち、指導研究のもと昭和41年度より組合員6人による25aの試作がなされ、その適応性と有望性の追求が始められた。これぞ球磨いぐさの起源となる。現在全国に名をなした銘柄品として球磨地方に定着したい草栽培の元祖である。

## 2. 球磨い業の経過

昭和42年 面積 25 a (6戸) 前年冬植付

昭和43年 面積 1.9ka (25戸)

昭和44年 面積 10.3ka (93戸)

郡市農協はい草を地域特産重点作目として奨励することに決し、市町村とも協議のうえ球磨地方い業振興協議会(会長 宮元玄次郎)を設立し組織活動による普及奨励の第一歩が踏み出された。

昭和45年 面積 22.3ka (195戸)

第1回い草生産者大会の開催と組織活動の展開で栽培意欲が急速に高まってきた。

昭和46年 面積 103.2ka (554戸)

昭和47年 面積 180.6ka (799戸)

農業構造改善事業により当時の免田町農協(現在合併により中球磨農協)を事業主体とし、郡市い原草集荷施設324m<sup>2</sup>が建設された。

昭和48年 面積 160ka (633戸)

い製品の系統共販が経済連評価取扱い方式で原草集荷所に搬入集荷して開始された。かたや免田町吉井には商系市場が開設され共販攪乱への影響甚大であった。

昭和49年 面積 155.2ka (642戸)

昭和50年 面積 179.8ha (616戸)

農民の熱願が系統組織の団結に結集され、独占商系市場を壊滅して生産者の手中に収め熊本い業史に輝く農協市場開設の偉業を成し遂げた。これと呼応して既設商系球磨市場の建物450㎡と敷地を買収し待望のい製品球磨農協市場として8月の新表初市から開市の運びとなった。

昭和51年 面積 159.5ha (441戸)

昭和52年 面積 252.7ha (588戸)

米の生産調整による新規耕作と既耕作者の増反による経営の安定化指向と相俟って作付が拡大されてきた。

昭和53年 面積 315.4ha (674戸)

い業組織も時流に添い生産者の系統組織体に改組することとなり過去大きな使命を果してきた球磨地方い業振興協議会を発展的に解散し熊本県い業生産販売振興会球磨支部(支部長 尾方時丸)が設立された。

かたやい製品市場が狭隘となり支障を来たすため221.5㎡の増築を行い、又敷地の一部を購入して1960.7㎡に拡張された。

昭和54年345ha(650戸)と組織的普及活動が盛んになり昭和44年から10年の歳月を経て対外的にその銘柄が評価されるまでに至り、その意義深い10年の節目を記念し八代郡千丁町に鎮座まします、い草の守護神、岩崎神社の分神鎮座を乞い、球磨郡上村に神社建立分神を奉った。

昭和55年362ha(620戸)昭和56年301ha(547戸)昭和57年257ha(452戸)と経営面積一躍拡大され発想から15年で球磨い草が特産地として定着し、今日ではい草、い製品共、県内はもとより全国一位の価格で取引きがなされている。水稻に次ぐたばこ代金を追抜くまでに発展した。

### 3. むすび

省りみるに、い草にかかわる総ての者の情熱と努力の積み重ねが球磨い業の今日を築き上げたものであり、これをふまえて1980年代こそ他の追従し能わぬ最良銘柄への改善創造の年代として総力を結集邁進ゆるぎなき球磨い業を確立これを次代に継譲することが今日我々に果せられている使命と痛感し相共に協力団結してこれを成し遂げられんことを切願するものである。